No.

# パキスタン国における地震災害に対する国際緊急援助隊 救助チーム・医療チーム活動報告書

平成18年1月
(2006)

独立行政法人　国際協力機構
国際緊急援助隊事務局

| 緊災 |
| --- |
| JR |
| 06-001 |

# 序　　文

平成 17 年 10 月 8 日にパキスタン国北西部で発生した大地震は、同国に甚大な人的及び物的被害を及ぼしました。パキスタン国政府の援助要請に基づき日本国政府は国際緊急援助隊救助チームと医療チームを派遣し、一人でも多くの人命を助け、被災の痛みを和らげるため、同国で捜索・救助活動並びに医療活動にあたりました。

派遣に際しては、距離的なハンディを乗り越え、各国の救助隊とほぼ同時に被災地入りするとともに、国際緊急援助が及ばない山岳僻地で他国に先んじて活動を行いました。

援助隊隊員全員が厳しい生活環境に身を置きながらも、救助チームは、被災現場での生存者救出は叶いませんでしたが倒壊家屋から３名のご遺体を発見して収容を行うとともに、医療チームは活動期間中に２，２４２名の被災者を診療することができました。

今回の国際緊急援助隊の活動ではパキスタン国、日本国そして世界においても広く賞賛を得ることができました。本報告書はその活動についてまとめたものであります。

本書が、国際緊急援助隊の活動に対する広い理解と今後の国際緊急援助活動の充実、そして、世界の災害被災国援助に対する我が国のさらなる貢献につながることを願ってやみません。

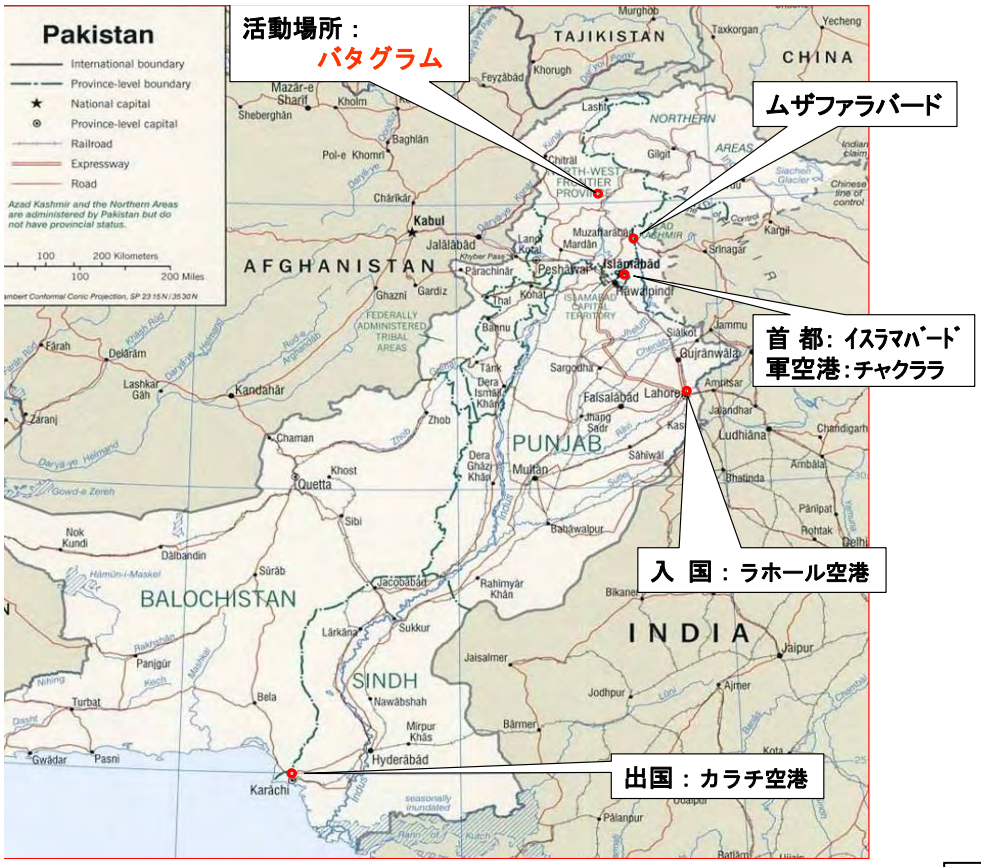
このたびの地震で命を落とされた方々のご冥福、そして一日も早いパキスタン国の復興を衷心より祈念いたしますとともに、国際緊急援助隊の活動についてご理解とご協力をいただいている皆様に深く感謝の意を表します。

平成１８年１月

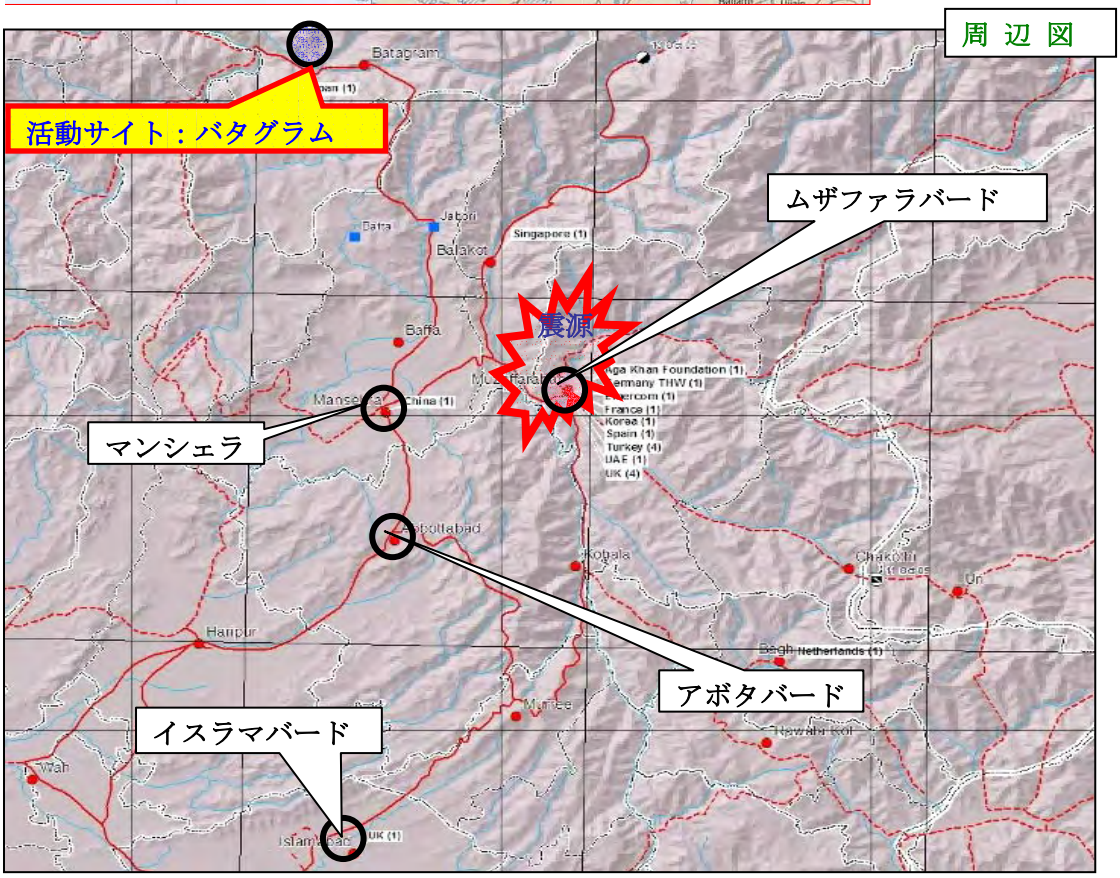
独立行政法人 国際協力機構
国際緊急援助隊事務局長
浅 野　寿 夫

# 国際緊急援助隊　活動地域図

広 域 図




周 辺 図



# 国際緊急援助隊　現地活動拠点

# 目　　次

序文
活動地域図
現地活動拠点図
目次

Ⅰ　災害概要 ･････････････････････････････････････････････････････････････････ 1

Ⅱ　国際緊急援助の全体概要（一覧）･････････････････････････････････････････････ 3

Ⅲ　国際社会の対応（発災時）･･･････････････････････････････････････････････････ 4

Ⅳ　活動報告【国際緊急援助隊 救助チーム】
１．隊員名簿･････････････････････････････････････････････････････････････････ 8
２．活動日程･････････････････････････････････････････････････････････････････ 10
３．チーム構成･･･････････････････････････････････････････････････････････････ 11
４．団長総括･････････････････････････････････････････････････････････････････ 12
５．活動内容･････････････････････････････････････････････････････････････････ 14
６．特記事項･････････････････････････････････････････････････････････････････ 21
７．セクション別報告
（１）中隊長報告･････････････････････････････････････････････････････････････ 23
（２）業務調整員報告･････････････････････････････････････････････････････････ 29
（３）医療班報告･････････････････････････････････････････････････････････････ 38
８．救助チーム活動総括･･･････････････････････････････････････････････････････ 39
９．帰国時のパキスタン政府への報告概要･･････････････････････････････････････ 40

Ⅴ　活動報告【国際緊急援助隊 医療チーム】
１．隊員名簿･････････････････････････････････････････････････････････････････ 42
２．活動日程（１次・２次隊）･････････････････････････････････････････････････ 43
３．チーム構成･･･････････････････････････････････････････････････････････････ 45
４．診療サイトマップ･････････････････････････････････････････････････････････ 46
５．活動概要・特記事項･･･････････････････････････････････････････････････････ 47
６．団長総括（概要骨子）････････････････････････････････････････････････････ 49
７．活動報告書（1 次・２次隊日報）･･････････････････････････････････････････ 50
８．セクション別報告
（１）医師班報告･････････････････････････････････････････････････････････････ 96
・外科系診療のまとめ ･･･････････････････････････････････････････････････ 98
・皮膚疾患のまとめ ･･････････････････････････････････････････････････ 100
（２）看護班報告（１次・２次隊）･････････････････････････････････････････････ 102

（３）薬剤班報告（１次・２次隊）･････････････････････････････････････････････････････ 108
（４）検査班報告（２次隊）
・テント検査室：機材内容と実施体制について･････････････････････････････････ 111
・携帯Ｘ線装置について･････････････････････････････････････････････････････ 116
（５）連携・調整班報告（２次隊）･････････････････････････････････････････････････ 127
（６）ロジスティックス班報告･････････････････････････････････････････････････････ 132

添付資料

１．パキスタン政府への報告（現地引継ぎ報告）
（１） 医療チーム　１次隊現地引継ぎ報告書（診療データを含む） ･････････････････････ 146
（２） 医療チーム　２次隊現地引継ぎ報告書（診療データを含む） ･････････････････････ 154
２．インターネット広報（JICA ホームページからの広報） ･････････････････････････････ 165

# Ⅰ．　災害概要

## １．災害状況

発生時刻：　２００５年１０月８日　現地時間　０８：５０
（日本時間　１２：５０）

地震の規模：マグニチュード７．６

震　源：　パキスタン国首都イスラマバードの北北西１０５km

## ２．被害状況

・人的被害

死者　７．３万人、負傷者６．９万人

被災者 400 万～500 万人　　(2005/11/02 付　パキスタン国政府発表)

・物的被害

全壊・半壊家屋多数

## ３．パキスタン国政府の対応（発災時）

パキスタン国政府は、軍を動員し被災地に派遣するとともに、現地時間８日付で国際社会からの支援を要請するとともに、わが国に対しても国際緊急援助隊（救助チーム及び医療チーム）の派遣を要請した。

## ４．国際緊急援助隊の対応（発災時）

パキスタン国政府からの緊急援助要請を受け、外務省にて発災日午後 16 時 45 分に国際緊急援助隊の出動を決定。翌 10 月 9 日 10 時に救助チーム（49 名）が被災地に向けて成田空港から出動し、さらに翌 10 日 11 時には医療チーム 1 次隊（21 名）が同空港を出動した

## ５．国際社会の対応（発災時）

各国の支援状況一覧表のとおり　　（2005/10/14 付　在パキスタン日本大使館経済班公表）

# Ⅱ．国際緊急援助の全体概要　一覧

| 援 助 形 態 | 活 動 結 果 | 内　容 |
|---|---|---|
| 国際緊急援助隊<br>救助チーム　派遣 | ・派遣期間：　10月9日～18日<br>・隊員数：　４９名<br>・発見/収容：　３遺体 | 被災国外の緊急援助が未到達の北部辺境州バタグラムにおいて捜索救助活動を実施。 |
| 国際緊急援助隊<br>医療チーム１次隊<br>派遣 | ・派遣期間：　10月10日～23日<br>・隊員数：　２１名<br>・診療患者数：　１，０９８名 | ・北部辺境州バタグラムにおいて他の医療支援機関に先駆けて診療活動を展開し、地域支援機関の調整にも貢献するなど、その後の地域医療体制整備に向けた牽引役としての役割を果たした。<br>・また、僻地アライ地区にも医師を派遣し、モバイル診療の可能性も模索した。 |
| 国際緊急援助隊<br>医療チーム２次隊<br>派遣 | ・派遣期間：10月20日～11月2日<br>・隊員数：　２１名<br>・診療患者数：　１，１４４名<br>（一次隊との合計：２，２４２名） | ・レントゲン、超音波診断装置、生化学分析器の高度技術医療機器を初めて携行した。<br>・現地活動終了に際して、携行した医療資機材をパキスタン政府に譲渡するとともに、活動サイトを日本のNPOであるHuMA（災害人道医療支援会）に引き継ぎ、災害応急期から復旧･復興期に至る絶え間ない医療ニーズに応えるべく、切れ目のない支援を行った。 |
| 緊急援助物資供与 | ・２５００万円相当の物資供与<br>（テント30張、毛布2000枚、<br>浄水器20台、発電機20台 他） | ・英国倉庫に備蓄していた物資を輸送し、イスラマバードに10月11日及び13日に到着した。<br>・自衛隊、パキスタン軍などにより北部辺境州などへのアクセス困難な困窮地への輸送が行われた。 |
| 国際緊急援助隊<br>自衛隊部隊<br>派遣 | ・派遣期間：　10月12日～12月１日<br>・人員：　１４７名<br>・ヘリコプター：　６機<br>・活動結果：　（移送）<br>物資４５ﾄﾝ、患者避難者７２０名 | ・日本等からの物資の輸送や患者、避難民等の人員輸送を実施した。<br>・緊急援助隊医療チームの人員や物資の輸送にも協力した。 |
| 自衛隊部隊<br>支援チーム　派遣 | 第１陣　４名<br>派遣期間：10月15日～10月30日<br>第２陣　２名<br>派遣期間：10月27日～11月12日<br>第３陣　２名<br>派遣期間：11月9日～12月1日 | ・青年海外協力隊OBを派遣し、自衛隊部隊の円滑な活動に資するための業務調整を実施した。 |

# 各国の支援状況

| | 緊急援助 | | 資金協力 | 人的支援 | 物的支援 | 軍事・輸送支援 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 救助 | 医療 | | | | |
| 日本 | ・国際緊急援助隊救助チーム（49名） | ・国際緊急援助隊医療チーム（21名） | ・2000万米ドルの無償支援 | | ・約2500万円相当の緊急援助物資の供与 | ・緊急援助に関する航空輸送のため自衛隊員約130名及びヘリコプター3機を派遣 |
| 米 | ・災害支援隊<br>・空軍緊急事態支援部隊 | | ・5000万米ドルの支援（コミット済総額は約1100万ドル。そのうち930万ドルはUNフラッシュアピール向けの予定） | ・アセスメントチーム（DART）（8名）の派遣 | ・初期救援物資（毛布、水容器等）の提供<br>・毛布やテントを搭載したC-17及びC-130軍用機の派遣 | ・米軍ヘリコプター8機<br>・ヘリコプター4機を追加投入予定 |
| 英 | ・捜索・救助隊（含NGO） | | ・これまで1200万ポンドの直接支援をコミット<br>・更なる支援の用意 | | ・テント、毛布の提供<br>・総額110万ポンドの更なる物資供給をコミット | |
| 仏 | ・緊急援助隊 | ・医療隊（45名）<br>・移動病院（2カ所）<br>・パーラコート(NWFP)、AJKで活動 | | | ・20トンの支援物資の提供 | |
| 独 | ・緊急救助隊 | ・医療隊 | ・5万ユーロの緊急支援<br>・100万ユーロの追加拠出をプレッジ<br>・30万ユーロ（独赤十字社支援）<br>・25万ユーロ（UNICEFに拠出、飲料水・食料、保健分野に活用） | | ・C-160型運用機3機が支援物資を輸送 | ・ヘリコプター2機 |
| 伊 | ・緊急救助隊 | ・医療隊(30名)<br>・移動病院 | | ・アセスメントチーム（7名）の派遣 | ・人道支援物資を積載したC-130の派遣 | |
| スペイン | ・救急隊、レスキュー隊 | ・医療チーム（44名）<br>・移動病院 | | | | |
| ベルギー | | ・医療チーム（15名）<br>・移動病院 | ・35万ユーロ（緊急支援物資購入向け）<br>・15万ユーロ（フランドル政府、NGO向け） | | ・テント、毛布、食器等の支援物資 | |
| アイルランド | | | ・300万ユーロ（100万ユーロはUNICEFを通じた支援、その他は、赤十字社、赤新月社、OCHAを通じた支援に拠出） | | | |
| デンマーク | | | ・1000万クローネ（半分は国際赤十字社、残りはUNICEF等国際機関に拠出） | ・専門家の派遣（UNの支援活動調整の国際チーム一員として） | | |
| EC | | | ・360万ユーロの緊急人道支援表明<br>・1000万ユーロの緊急人道支援を表明予定 | ・復興支援（住宅建設専門家派遣）を検討 | ・支援物資の提供 | |
| 露 | ・救助隊 | ・医師チーム（52名）<br>・移動病院 | | | ・テント、毛布等30トンの支援物資の提供 | |
| 加 | | | ・1000万加ドル（赤十字国際委員会等の支援ニーズ調査のため）<br>・2000万加ドル（含国際機関を通じた支援（1070万ドル）、支援物資、NGO向け等） | ・アセスメントチームやDARTの派遣を検討中 | ・加空軍機、21トンの毛布送付 | |
| 中国 | ・救助隊、医療隊<br>・パーラコート(NWFP)で活動 | ・医療隊<br>・パーラコート(NWFP)で活動中 | ・資金・物資供与をあわせた620万米ドルの支援<br>・100万米ドルを「パ」側へ引渡。 | | ・毛布、テント、薬・医療器械等約200トンの救援物資の提供 | |
| 韓国 | ・援助隊（ムザッファラバードにて活動） | ・医療隊（派遣場所未定） | | | | |
| 印 | | | | | ・支援物資提供 | |
| アフガニスタン | | ・政府医療チーム | | | | ・ヘリコプター4機 |
| トルコ | ・救助隊（含NGO）がムザッファラバードで活動 | ・医療隊（40名）がムザッファラバードで活動予定<br>・トルコ赤新月社（9名）<br>・今月末まで医療チームを載せた輸送機1機を毎日派遣 | | | ・空軍機による人道支援物資の搬送<br>・今月末まで、人道支援物資を載せた輸送機1機を毎日派遣 | |
| イラン | ・救助隊<br>・マンセヘラで活動 | ・医療隊<br>・マンセヘラ、カガーンにて活動予定 | | | ・40トンの支援物資（テント、毛布、カーペット、医療器具） | |
| UAE | ・救助隊 | | ・1億ドルを供与 | | ・食料、テント、毛布、医療器具などの支援物資の提供 | |
| サウジアラビア | | | | | ・テント、医薬品などの提供 | |

| | 緊急援助 | | 資金協力 | 人的支援 | 物的支援 | 軍事・輸送支援 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 救助 | 医療 | | | | |
| 世銀 | | | ・4000万米ドルの支援表明(道路、学校、水供給、保健施設のリハビリ向け) | | | |
| ADB | | | ・1000万米ドル(復興支援(学校、保健施設、道路、橋、水道等インフラ)) | | | |
| 国連 | | | (国連統一緊急アピール:2億7200万米ドル) | ・災害管理チーム(DART) | | ・ヘリコプター計12機投入予定 |
| 国連人道問題調整事務所(OCHA) | ・救援、専門家チーム | | ・10万ドルコミット | | ・食料、テント、医療機器等の提供 | |
| FAO | | | | (・ニーズ把握のため3名が16～24日まで現地入り) | | |
| IOM | | | | | ・テント、毛布の提供 | |
| UNESCO | | | | ・アセスメント(ムザッファラバード) | | |
| UNFPA | | | | | ・テント、毛布、医薬品をマンセヘラへ供与 | |
| UNHCR | | | | | ・テント、プラスティックシート、石鹸等の物資提供<br>・医療器具(手術器具、医薬品) | |
| UNICEF | | | | ・アセスメント(ムザッファラバード、バタグラム、バーラコート) | ・水、水浄水タブレット、経口補水塩をアボッタバード(NWFP)へ供与 | |
| WFP | | | | (・60名のスタッフをムザッファラバードに派遣予定) | ・50万ドル相当の高エネルギービスケットを含む緊急支援 | |
| WHO | | ・医療隊(11名)、公衆衛生チーム ・移動病院 | | | | |

# 国際緊急援助隊　救助チーム 報告

2005 年 10 月 9 日～10 月 18 日

## １．国際緊急援助隊救助チーム　隊員名簿

（派遣期間：２００５年１０月９日～２００５年１０月１８日）　　全４９名

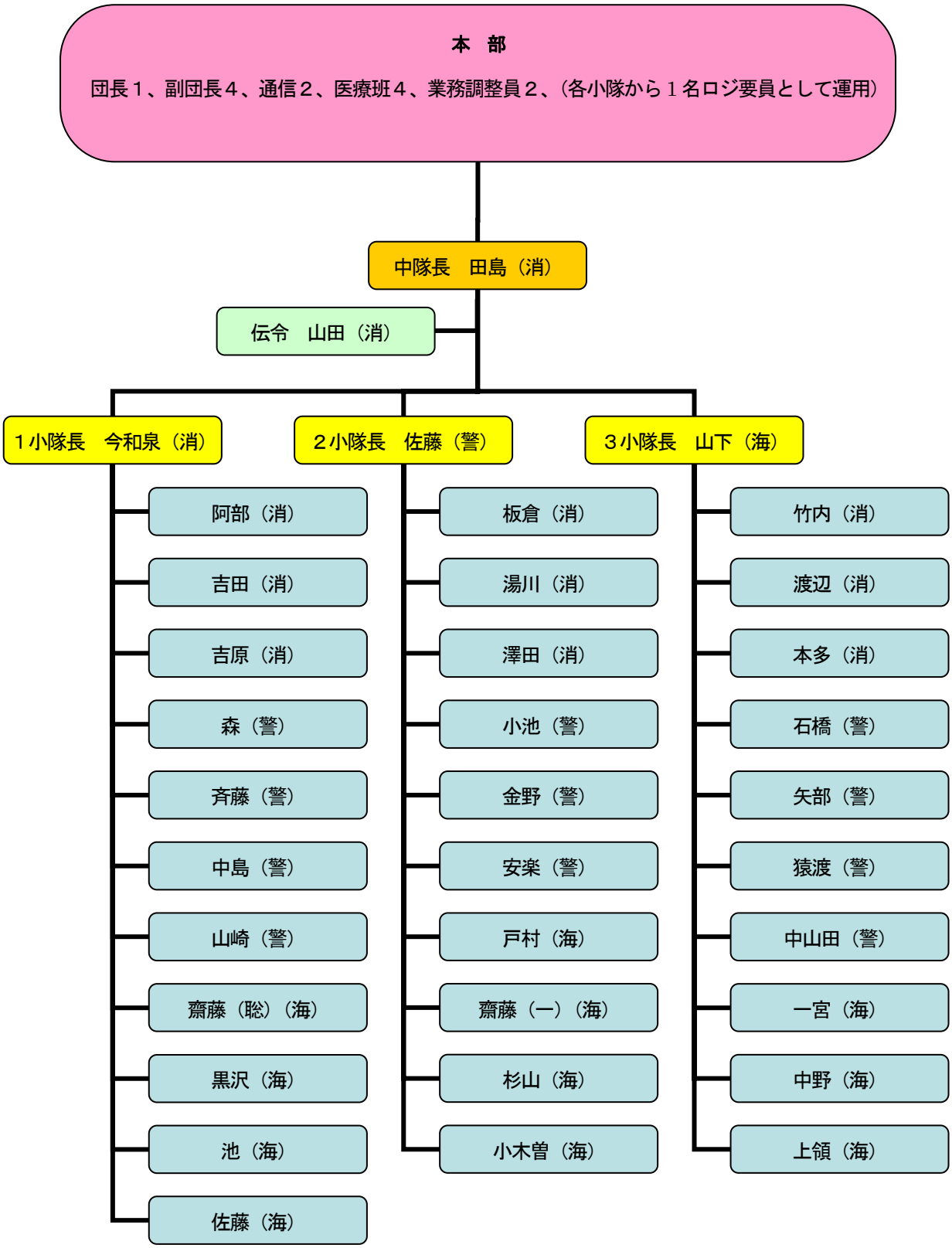
| No. | 氏　　名 | 所　　属　　先 | 指導科目 |
|---|---|---|---|
| 1 | 難波　　充典 | 外務省経済協力局国際緊急援助室 | 団長 |
| 2 | 小林　　正憲 | 警察庁長官官房国際課 | 副団長 |
| 3 | 下仲　　宏卓 | 総務省消防庁国民保護防災部 | 副団長 |
| 4 | 花井　　宏泰 | 海上保安庁総務部国際・危機管理官 | 副団長 |
| 5 | 大野　　龍男 | ＪＩＣＡ国際緊急援助隊事務局 | 副団長 |
| 6 | 福岡　　淳 | 警察庁東京都警察情報通信部 | 通信 |
| 7 | 渡邉　　城 | 警察庁東京都警察情報通信部 | 通信 |
| 8 | 佐藤　　邦彦 | 警視庁警備部災害対策課 | 救急救助 |
| 9 | 森　　哲也 | 警視庁警備部第三機動隊 | 救急救助 |
| 10 | 石橋　　俊彦 | 警視庁警備部第七機動隊 | 救急救助 |
| 11 | 小池　　知孝 | 警視庁警備部第一機動隊 | 救急救助 |
| 12 | 齋藤　　耕一 | 警視庁警備部第四機動隊 | 救急救助 |
| 13 | 矢部　　俊幸 | 警視庁警備部第五機動隊 | 救急救助 |
| 14 | 中島　　晃 | 警視庁警備部第二機動隊 | 救急救助 |
| 15 | 猿渡　　浩二 | 警視庁警備部第二機動隊 | 救急救助 |
| 16 | 金野　　祐介 | 警視庁警備部第六機動隊 | 救急救助 |
| 17 | 山﨑　　泰正 | 警視庁警備部第八機動隊 | 救急救助 |
| 18 | 中山田　博章 | 警視庁警備部第九機動隊 | 救急救助 |
| 19 | 安楽　　秀樹 | 警視庁警備部特科車両隊 | 救急救助 |
| 20 | 田島　　松一 | 東京消防庁警防部 | 救急救助 |
| 21 | 今和泉　健一 | 東京消防庁第八消防方面本部 | 救急救助 |
| 22 | 山田　　寿 | 東京消防庁警防部 | 救急救助 |
| 23 | 板倉　　丈也 | 東京消防庁第二消防方面本部 | 救急救助 |
| 24 | 阿部　　聡 | 東京消防庁第八消防方面本部 | 救急救助 |
| 25 | 竹内　　健 | 東京消防庁第二消防方面本部 | 救急救助 |
| 26 | 吉田　　康義 | 横浜市消防局泉消防署 | 救急救助 |
| 27 | 渡辺　　史 | 横浜市消防局横浜市民防災センター | 救急救助 |
| 28 | 本多　　隆樹 | 横浜市消防局横浜市民防災センター | 救急救助 |
| 29 | 湯川　　達也 | 船橋市消防局中央消防署 | 救急救助 |
| 30 | 澤田　　幸昭 | 船橋市消防局東消防署 | 救急救助 |
| 31 | 吉原　　司 | 茨城西南地方広域市町村圏事務組合消防本部下妻消防署 | 救急救助 |
| 32 | 齋藤　　聡 | 海上保安庁第二管区海上保安本部塩釜海上保安部 | 救急救助 |
| 33 | 戸村　　望 | 海上保安庁第二管区海上保安本部塩釜海上保安部 | 救急救助 |
| 34 | 山下　　浩一郎 | 海上保安庁第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 | 救急救助 |
| 35 | 一宮　　剛 | 海上保安庁第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 | 救急救助 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 36 | 黒沢　　俊輔 | 海上保安庁第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 | 救急救助 |
| 37 | 中野　　孝之 | 海上保安庁第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 | 救急救助 |
| 38 | 齋藤　　一世 | 海上保安庁第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 | 救急救助 |
| 39 | 杉山　　陽二郎 | 海上保安庁第四管区海上保安本部鳥羽海上保安部 | 救急救助 |
| 40 | 小木曽　健 | 海上保安庁第四管区海上保安本部鳥羽海上保安部 | 救急救助 |
| 41 | 上領　　直人 | 海上保安庁第八管区海上保安本部境海上保安部 | 救急救助 |
| 42 | 池　　睦 | 海上保安庁第九管区海上保安本部新潟海上保安部 | 救急救助 |
| 43 | 佐藤　　正美 | 海上保安庁第九管区海上保安本部新潟海上保安部 | 救急救助 |
| 44 | 福島　　憲治 | 埼玉医科大学総合医療センター | 救急医療 |
| 45 | 杉田　　学 | 順天堂大学医学部付属練馬病院 | 救急医療 |
| 46 | 妹尾　　正子 | 独立行政法人国立病院機構災害医療センター | 救急看護 |
| 47 | 軽部　　祐子 | 独立行政法人国立病院機構災害医療センター | 救急看護 |
| 48 | 山田　　知伸 | ＪＩＣＡ国際緊急援助隊事務局 | 業務調整 |
| 49 | 市原　正行 | ＪＩＣＡ国際緊急援助隊事務局 | 業務調整 |

## 2. 救助チーム　活動日程

| 月　日 | | 活　　動 | 泊 |
|---|---|---|---|
| 10月9日 | 日 | 10:00　成田発（TG671）<br>14:30　バンコク着<br>20:00　バンコク発（TG505）<br>23:20　ラホール着<br>陸路でイスラマバード（チャクララ空港）に移動 | （車中） |
| 10月10日 | 月 | AM パキスタン側からのブリーフィング<br>PM ヘリにてバタグラムへ移動<br>到着後、救助活動開始 | バタグラム |
| 10月11日 | 火 | 救助活動 | バタグラム |
| 10月12日 | 水 | 救助活動 | バタグラム |
| 10月13日 | 木 | 救助活動 | バタグラム |
| 10月14日 | 金 | AM　救助活動終了、イスラマバードへ移動 | イスラマバード |
| 10月15日 | 土 | AM　身辺整理<br>PM　日本国大使館への報告 | イスラマバード |
| 10月16日 | 日 | 19:00　イスラマバード発（PK309）<br>20:00　カラチ着 | （カラチ空港内） |
| 10月17日 | 月 | 02:55　カラチ発<br>09:45　バンコク着（TG508）<br>22:45　バンコク発（JL704） | 機内泊 |
| 10月18日 | 火 | 06:45成田着（JL704） | |

## ３．救助チーム　構成


本　部
団長１、副団長４、通信２、医療班４、業務調整員２、（各小隊から１名ロジ要員として運用）
中隊長　田島（消）
伝令　山田（消）
１小隊長　今和泉（消）
２小隊長　佐藤（警）
３小隊長　山下（海）
阿部（消）
吉田（消）
吉原（消）
森（警）
斉藤（警）
中島（警）
山崎（警）
齋藤（聡）（海）
黒沢（海）
池（海）
佐藤（海）
板倉（消）
湯川（消）
澤田（消）
小池（警）
金野（警）
安楽（警）
戸村（海）
齋藤（一）（海）
杉山（海）
小木曽（海）
竹内（消）
渡辺（消）
本多（消）
石橋（警）
矢部（警）
猿渡（警）
中山田（警）
一宮（海）
中野（海）
上領（海）

## ４．活動報告及び団長所感

外務省 経済協力局
国際緊急援助室長　難波　充典

１　今回のパキスタン北部を震源とする地震に対しては､我が国は､パキスタン政府の要請に基づき、異例の早さで、援助隊派遣を決定した。地震発生の翌日、早朝に結団式を挙げ、被災地に向かったが、当日はパキスタンへの直行便はなく、バンコク、ラホールを経由し、イスラマバード着とならざるを得なかった。イスラマバード到着後は大使館の尽力もあり、パキスタン軍ヘリコプターで被災地に赴くことができ、地震発生後、５０時間でパキスタン政府より我が国にあてられた被災地バタグラム（最大の被災地とされているムザファラバードから見て北西方向にある町）に到着した。

２　バタグラムでは、パキスタン軍関係者及びパキスタン市関係者より、被災状況につき説明を受けるとともに、直ちに被災現場へと向かった。バタグラム中心部は、イスラマバード同様、地震による被害の様子は見受けられず、一見しただけでは地震があったとは考えられない状況であったが、一部の建物が、全壊もしくは大きな損傷を受けていた。崩壊していた建物の内、郡立病院に要救助者がいるとの情報を得て、同病院の捜索活動を真っ先に行った。第一次的に同病院の捜索を行った理由は、病院、ホテル、学校、集合住宅は多数の要救助者がいると考えられること、同病院は他の民家とは異なり、鉄筋コンクリート造りで、都市型捜索・救助を行うことが容易と考えられたからである。同病院の捜索作業は、翌日の午後まで゛継続したが、結果は要救助者の確認を行うことはできなかった。被災地における情報収集の困難さを実感した。

３　次いでバタグラム郡で最も被害を受けたとされているバターモリ、チャパグラム、ゴルゲラ地区の捜索を行った。バターモリについては、前日に生存者が救出されたとの情報があったため、地震発生後、生存の可能性があるとされる７２時間は即に経過していたが、生存者救出の可能性はあるとの期待が持たれた。険しい山道を一時間半かけて到着後、懸命の捜索活動を行ったが、一遺体の収容を行ったにすぎなかった。ゴルゲラ地区については、一旦捜索を行ったが、被災の状況から察して生存者がいる可能性はきわめて低いとの判断から、全体での捜索は実施しないこととしたが、再度、家族より、娘が瓦礫の下にいるので助けて欲しいとの要請があり、捜索活動を行った結果、要救助者２体を救出（内１体は現地民に協力したもの）したが、既に死亡していた。またチャパグラムについてはその後、地元民より要救助者はないとの情報を得たため、捜索を断念した。

４　１４日に至り、もはやバタグラムで生存者の救出を行うことは困難と判断し、捜索現場を撤収して、イスラマバードに向かった。イスラマバードでは、国連ＯＣＨＡ関係者、パキスタン内閣府サイード次官補、田中在パキスタン大使等へ活動を報告した。その中で、サイード次官補は、日本が遠路はるばる来てくれたことがまずうれしい。日本の救助チームの当地における活動は、パキスタン市民を大いに勇気づけてくれた、パキスタンはこの日本の貢献を高く評価したいと述べていた。常時、全員一丸となって規律正しく活動した日本の協力ぶりは、現地市民から好意的に受け止めら

れたものと考えられる。更に、日本救助チームには邦人プレスに加え、ＣＮＮ、ロイター等の外国プレスも同行し、取材を行ったため、日本の貢献は広く我が国内外に伝えられ、相応の評価を得たものと思慮される。

5　しかしながら、生存者の救出を目的とする救助活動を実現するためには、今後、以下の点を勘案する必要があろう。

（１）　迅速な派遣：

派遣決定については今回は極めて迅速に行われた。しかし、パキスタン到着までに２４時間もかかるという状態では、どうしても他国に遅れてしまう。また、今回は直行便がなかったことから、商業機で数回の乗り継ぎをおこなわなければならなかったが、時間的なロスが多く、改善する必要があることを痛感した。スイスなどはチャーター機を使用しており、日本としても、商用機以外の手段（例えばチャーター機等）を考慮する必要があろう。

（２）　的確な情報把握：

今回はパキスタン軍と地域住民からの情報が主であったが、中には、信憑性に欠けるものがあり、惑わされることもあった。身内からの救助要請は確実なものであったが、それとて、確実に居場所を特定できず、捜索に多大の時間を要することとなった。捜索する側としては、大きなビル、病院、学校等捜索場所を労せずして特定できるところが望ましく、今後留意する必要がある。

（３）　捜索場所の選定：

今回、パキスタン政府は、選考して到着した英国、トルコ等には、イスラマバード、ムザファラバードといった都市部を割当てたが、日本に対しては、未だにいずれの国も手をつけていなかったバタグラム郡という辺境地区を割り当てた。日本としてはパキスタン政府の要請に基づき忠実に職務を実施したわけであるが、同地は険しい山岳地域であって、被災地へのアクセスも悪く、また、家屋が土、木材、石材で建立されていることから、近代装備を備えている都市型捜索・救助活動には馴染まない点が多かった。海外の被災地が都市型である可能性は少なく、救助チームも、世界の僻地環境に対応する能力が試されている。我が国救助チームに適した場所を選定できるかは所詮、派遣のスピード如何によることも教訓であった。

（４）　救助隊の意思統一：

日本の救助隊は、警察、消防、海保、ＪＩＣＡ、外務省という混成チームによって成立しているが、特に、前３者がバラバラに行動するようなこととなった場合、成果を期待することは無理であろう。今回の場合、この３者がオール・ジャパンとして、一致協力して行動してくれたが、このような救済チームの行動ぶりがパキスタン側から高い評価を得たことは言うまでもない。

## ５．救助チーム活動内容

（１）派遣までの経緯

10 月 8 日にパキスタン国政府からの要請を受け、日本国政府は国際緊急援助隊救助チームの派遣を正式決定し、49 名の隊員を派遣することとなった。

（２）派遣目的・任務

活動目標をパキスタン国地震災害における人的（肉体的･精神的）被害の軽減とする。

この活動目標達成のため、パキスタン国政府及び他国援助機関と協力し、地震による被災者の捜索、救出、応急措置、安全な場所への移送などの活動を行う。

（３）活動概要

パキスタン国到着後､パキスタン軍との打ち合わせに基づき被災地のバタグラム地区の病院の倒壊現場にて活動を開始した。

その後 3 日間の捜索･救助活動の結果、倒壊家屋の中から行方不明者 3 名を救出したがいずれも死亡を確認した。

日本の救助チームの活動については、先方政府及び内外のマスコミでも高く評価された。

（４）活動記録

10 月 8 日（土）

| | |
|---|---|
| 12:50 | 地震発生 |
| 16:45 | 派遣決定 |

10 月 9 日（日）

| | |
|---|---|
| 09:00 | 結団式 |
| 10:00 | 成田発 |

（以上日本時間による表示）

（以降現地時間による表示）

10 月 9 日（日）

| | |
|---|---|
| 14:30 | バンコク着以後バンコク空港にて航空機乗り換えのため待機 |
| 20:00 | バンコク発 |
| 23:20 | ラホール着 |

10 月 10 日（月）

| | |
|---|---|
| 00:30 | ラホール発（車両） |
| 06:22 | イスラマバード、パキスタン軍チャクララ空軍基地到着 |

| | |
|---|---|
| 10:15 | チャクララ空軍基地からバタグラムへ向け出発（MI-17　1・2 号機：要員搬送）<br>携行資機材はこの 2 機のヘリでピストン搬送を行った。<br>なお、隊員５名はヘリへの資機材積込み要員として、搭乗せず。 |
| 11:50 | ２号機バタグラム着。 |
| 12:15 | パタグラム郡ゲストハウス到着。以後、これを拠点本部とする。 |
| 12:54 | 現地の町長からの要望によりパキスタン軍の車両にてチャパグラム（本部から約 2km 離れた場所）へ視察出発（17 名）。<br>団長、副団長 3、通信 1、中隊長、伝令、小隊長を含む各班 3 名、通訳 1 |
| 14:50 | 視察終了し、本部に戻る。 |
| 15:00 | 救助機材はないが、人海戦術で捜索活動を行うため、ＤＨＱ病院（本部から 300 m離れた場所）に出発。<br>なお、各班から 3 名は資機材チェックとして本部で待機。<br>（状況）4～5 名が瓦礫の下敷きになっている模様。 |
| 15:10 | ＤＨＱ病院に到着。<br>野次馬対策の軍の応援を求む。 |
| 15:22 | 医師 1、隊員数名がＤＨＱ病院に出発。 |
| 15:25 | 医師 1、隊員数名がＤＨＱ病院に到着。 |
| 16:00 | 視察出発。<br>団長以下 5 名（通訳 1 名含む） |
| 16:30 | 資機材ヘリ、バタグラムヘリポート到着<br>本部から搬送車両と要員をヘリポートへ手配<br>ＤＨＱ病院捜索活動班は一時本部に戻る。 |
| 16:45 | 資機材搬送 1 回（機）目と 2 回（機）目ヘリ到着 |
| 17:05 | 資機材　搬送 3 回（機）目と 4 回（機）目ヘリ出発 |
| 17:05 | なお、積み残し資機材あり<br>（内訳）<br>・隊員携行品 20 人前後分<br>・隊員 3 名、JICA 員 2 名 |
| 19:13 | 捜索活動終了。 |
| 20:30 | テント設営終了。夜食（アルファ米、インスタント味噌汁）<br>ほぼ食事終了後、軍からのカレーライス差入れがあった。 |
| 20:30 | 翌日行動のためのミーティング。 |
| 23:00 | 就寝 |

10 月 11 日（火）

| | |
|---|---|
| 07:00 | 起床　チームの健康状態良好。<br>朝食 |
| 09:00 | 第 1 及び第 2 小隊はＤＨＱ病院に向けて出発。<br>第 3 小隊は本部拠点にて待機。 |

| | |
|---|---|
| 09:05 | ＤＨＱ病院到着。第１現場での活動開始。 |
| 10:33 | Ｐ波(地震計)、削岩機、エンジンカッターを使用し、捜索中。 |
| 10:50 | 第 2 現場(病院裏手側)到着。状況確認にはいる。 |
| 11:17 | 第 1 現場の状況<br>2 階に侵入し、コンクリート 2 箇所に穴をあけ、ボーカメで探査中。 |
| 11:20 | 第 1 現場から報告。<br>3 箇所の壁に穴をあけ、ボーカメで探査中するが人影はなし。 |
| 11:26 | 第 1 現場から報告。<br>ベットの下に人影はない。 |
| 11:36 | 第 3 小隊は第 2 現場到着し、捜索開始のための確認作業中。 |
| 11:45 | 第 2 現場捜索開始。 |
| 12:00 | 中隊長から連絡<br>第 1 現場は第 1、第 2 小隊が着手しているが生存者の確認が終了しだい、本部で昼食<br>第 3 小隊は引続き続行。 |
| 12:04 | 余震あり。各隊異状なし。 |
| 12:30 | 第 1 現場には要救助者なし。撤収準備開始中なお、第 1、第 2 小隊は第 2 現場へ向かう。 |
| 12:33 | 余震あり。各隊異状なし。 |
| 12:50 | 第 1、第 2 小隊、医療班は本部へ移動開始。第 3 小隊は続行。 |
| 12:55 | 第 1、第 2 小隊、医療班は拠点到着。 |
| 13:00 | 第 2 現場の捜索開始。 |
| 13:05 | バタモリ(拠点(ゲストハウスから 13km は離れた場所)に視察に出発。（団長を含む 2 名） |
| 13:47 | 第 1、第 2 小隊は第 3 小隊と第 2 現場交代のため、出発第 3 小隊は昼食。 |
| 13:52 | 第 1、第２小隊は第 3 小隊より引継中。 |
| 14:02 | 第 1、第 2 小隊は現場活動開始。<br>第 3 小隊は拠点に移動中。 |
| 14:07 | 第 3 小隊到着。 |
| 14:20 | 医療班資機材がヘリポートに到着。 |
| 14:51 | 中隊長から第 3 小隊の一宮隊員を通訳として、第 2 現場（2 階）に向かわせて欲しい。<br>本部了解 |
| 15:14 | 団長視察から戻る。 |
| 15:30 | 第 2 現場から連絡<br>2 階の眼科医に接触し「地震があった時は患者とともに避難している。」とのことから要救助者はない模様したがって 1 階の 2 ヶ所について、重点的に捜索する。 |
| 15:34 | 第 3 小隊、第 2 現場へ出発 |
| 17:14 | 中隊長から連絡 |

| | |
|---|---|
| | 第２現場では続行して捜索を行っているが、再捜索後、要救助者が発見できなければ捜索活動を中止する。 |
| 17:30 | 第２現場から第１・第２・第３・医療チーム引き上げ（全隊） |
| 17:44 | 第１・第２・第３・医療チーム（全隊）、本部到着 |
| 18:00 | 本日の活動は終了 |
| 18:30 | 夜食（アルファ米とレトルト食品、味噌汁、果物） |
| 20:00 | 翌日の活動ミーティングを行う |
| 22:00 | 就寝 |

10 月 12 日（水）

| | |
|---|---|
| 05:00 | 起床。朝食（パン、バナナ、ソーセージ） |
| 07:05 | 車両４台にて本部出発（ランクル２台・トラック２台）＋（軍車両１台：先導車） |
| 07:08 | 余震あり。震度２程度か？ |
| 07:50 | 中隊長から連絡あり。本部からおよそ 10km 地点において電線が垂れ下がりトラックの通行に支障をきたす。隊員が電線を持ち上げ通行可能となる。 |
| 07:55 | 中隊長から連絡あり。本部からおよそ 11km 地点において落石あり。隊員が取り除き通行可能となる。 |
| 08:18 | 車両４台バターモーリー到着（車両の入れる所まで）。さらに徒歩 15 分位の捜索現場まで移動 |
| 08:30 | 捜索現場到着。小隊長以上が現場確認をする。 |
| 08:50 | 現場確認終了。幅 1.5m、長さ 30mの家と家の道に、高さ 1.5m程の堆積物があり、その場所に生き埋めになっているとのこと。捜索対象者は 18 歳女性（昨日の情報と同じ）。各小隊に任務を付与し準備させる。 |
| 09:01 | 第１小隊から第３小隊まで順に現場に出発し、活動を開始させる。なお、現場での待機場所は、捜索場所から 25m 程離れた畑（20m×20m）に資機材等を置く。各小隊２名を資機材担当とした。 |
| 09:08 | 第１小隊活動開始。携行資機材（スコップ・エンジンカッター） |
| 09:14 | 第２・第３小隊活動開始 |
| 09:15 | Ｐ波設置完了。フジテレビが取材中 |
| 10:00 | 全小隊小休止。その間、捜索対象者と一緒に避難していた女性が現場に到着、事情聴取中。 |
| 10:25 | 事情聴取の結果、捜索活動に変更を期たす内容は得られず。引き続き全小隊活動開始。 |
| 10:45 | 第１・２小隊は現在の捜索場所を中断し、臭気がする場所の捜索を開始、第３小隊は続行。 |
| 10:50 | 第２小隊小休止 |
| 11:00 | 第２小隊と第３小隊交代。以後、各小隊毎に 15 分で交代とする。 |
| 11:15 | 昼食搬送のため活動現場へＪＩＣＡ2 名（市原・山田）出発。（ランクル２台にて） |

| | |
|---|---|
| 11:20 | 臭気がする場所を特定し 3 小隊にて捜索開始する。なお、各小隊毎に 10 分で交代とする。 |
| 12:20 | ＪＩＣＡ １名（市原）活動現場に到着 |
| 12:35 | 捜索活動一時中断、昼食をとる。 |
| 13:30 | 捜索開始（第 1 小隊・第 2 小隊）以後 20 毎のローテーション |
| 13:45 | ＪＩＣＡ １名（市原）活動現場から本部に向けへ出発 |
| 13:53 | 捜索対象者である女性の髪（ポニーテールで 20㎝）を発見（女性の叔父が確認済） |
| 14:05 | 対象者発見、現在上半身まで救出中 |
| 14:15 | ドクターが死亡確認 |
| 14:20 | 家族・親族が衣類から本人と確認、顔は座滅状態で、顔の判別は不可能。遺体は家族に引き渡す。 |
| 14:30 | 本部から捜索現場に向けランクル 1 台を出発させた。 |
| 14:36 | 捜索現場の資機材撤収中 |
| 15:00 | 捜索現場より本部に向けて出発 |
| 15:08 | 在パキスタン国日本国大使館へ遺体確認連絡（ＪＩＣＡ：大野） |
| 15:10 | ＪＩＣＡ緊急援助隊事務局へ遺体確認連絡（通信：福岡） |
| 15:18 | ＪＩＣＡパキスタン事務所へ遺体確認連絡（ＪＩＣＡ：大野） |
| 16:25 | 車両４台本部へ到着、全隊員異状なし。 |
| 16:50 | 団長・副団長・通信はバタグラム本部へ出発 |
| 17:20 | 団長・副団長・通信は本部到着 |
| 19:00 | 夜食（アルファ米、カップヌードル、缶詰 1、果物） |
| 20:00 | 本日の状況、翌日の活動打ち合わせ |
| 23:00 | 就寝 |

10 月 13 日（木）

| | |
|---|---|
| 06:00 | 起床。朝食（アルファ米、缶詰、インスタントスープ）、隊員の健康状態異状なし。 |
| 06:45 | 谷川副大臣、ヘリでバタグラム到着 |
| 07:00 | 谷川副大臣、ＤＨＱ病院視察 |
| 07:10 | 谷川副大臣、バタグラム郡ゲストハウス（本部）視察 |
| 07:15 | 谷川副大臣、バタグラム郡ゲストハウス（本部）視察終了 |
| 08:10 | 下仲副団長以下１３名の先遣隊はチャパグラムへ向け出発 |
| 08:17 | 先遣隊到着、車両にあっては本部に戻る。 |
| 08:21 | チャパグラム（本部から東 4～5km）の入口で情報収集<br>付近住民によれば 38 名死亡、この死亡者は住民により救出済み、不明者はいない模様 |
| 8:38 | 村の責任者によれば 34 名が死亡、他に不明者はいない。行商人 1 名が不明 |
| 8:42 | 先遣隊はいったん本部に戻る。 |
| 9:00 | 先遣隊は本部に到着 |

| | |
|---|---|
| | 小隊長以上でのミーティング実施 |
| 9:42 | ミーティングの結果、バターモーリー及びゴルゲラの視察出発<br>バターモーリー：中隊長以下４名（車１台）<br>ゴルゲラ：団長以下８名（車２台） |
| 10:33 | バターモーリー班到着<br>バターモーリーの要救助者は住民により救出済み。<br>なお、本部からバターモーリーまでの中間地点に位置するソールバザールに要救助者がいる模様。バターモーリー班はソールバザールに情報収集に向かう。 |
| 10:46 | ゴルゲラ班到着、情報収集開始 |
| 10:46 | バターモーリー班はソールバザールに到着、情報収集開始 |
| 11:00 | ゴルゲラ班、要救助者１名発見。<br>要救助者の発見者：佐藤小隊長(警)、斉藤(警)、今和泉小隊長(消)、板倉(消) |
| 11:20 | ゴルゲラ班からの指示<br>要救助者が１名いる模様。<br>出動に際してはバターモーリー班を本部に戻し、全隊でゴルゲラに出発 |
| 11:25<br>11:25 | バターモーリー班にゴルゲラ班の状況を説明し、本部に戻るよう指示。<br>本部に待機中の要員に資機材の準備、昼食を指示。<br>昼食（アルファ米、缶詰 2） |
| 11:27 | ゴルゲラ班、住民に協力して要救助者（1 人目）を搬出完了。10 才女性 |
| 11:50 | ゴルゲラ班、2 人目の要救助者の捜索開始。 |
| 12:10 | ゴルゲラ班、2 人目の要救助者の頭部発見。 |
| 12:16 | バターモーリー班、本部に到着。 |
| 12:20 | ゴルゲラ班、2 人目の要救助者の搬出するための足場を確保。<br>なお、要救助者はこの状態で家族等に引渡す。要救助者は 10 才女性 |
| 12:25 | ゴルゲラ班からの指示<br>出動は中止、本部で待機。 |
| 12:45 | ゴルゲラ班から連絡、本部に戻る。 |
| 13:30 | ゴルゲラ班到着 |
| 13:45 | 本捜索活動終了 |
| 18:00 | 前民主党衆議院員　藤田幸久<br>　民主党参議院員　若林秀樹<br>　民主党国際局兼調査局副団長　鈴木賢一<br>激励に訪れる。 |

10 月 14 日（金）

| | |
|---|---|
| 06:50 | 救助機材のトラックへの積み込み作業開始 |
| 08:45 | 救助機材のトラックへの積み込み作業終了 |
| 09:00 | バタグラム出発（車両） |
| 16:45 | イスラマバートのシャルマールホテルに到着 49 名全員宿泊 |

| | |
|---|---|
| 19:00 | ホテルにて夕食後解散 |

10 月 15 日（土）

| | |
|---|---|
| 11:00 | 団長／各副団長 4 名、ＵＮオフィスコンプレックスに出向き、<br>ＵＮＯＣＨＡのカトーチと面会並びに活動報告を実施 |
| 15:30 | 内閣府緊急援助局にてパキスタン政府へ活動報告を実施 |
| 17:30 | ＪＩＣＡパキスタン事務所山浦所長に対し活動報告を実施 |
| 18:00 | 大使公邸で大使への報告 |
| 18:30 | 大使公邸での夕食会 |
| 21:00 | シャルマールホテル着 |

10 月 16 日（日）

| | |
|---|---|
| 17:00 | 宿舎発 |
| 19:00 | イスラマバード空港発カラチ空港着 |
| 20:55 | カラチ空港着 |
| 22:45 | バンコク空港発成田へ |

10 月 17 日（月）

| | |
|---|---|
| 02:55 | カラチ空港発バンコク空港着 |
| 09:45 | バンコク空港着以後バンコクにてトランジット |
| 22:45 | バンコク空港発成田へ |

10 月 18 日（火）　　（以降、日本時間）

| | |
|---|---|
| 06:45 | 成田空港着 |
| 08:30 | 解団式 |
| 09:00 | 解散 |

## ６．特記事項

（１）活動内容

バタグラム郡バタグラムを中心に周辺村落での生存者捜索。主な活動場所は倒壊した病院。

活動を通じて最終的に３遺体の発見・収容を行った。

１０月１４日にバタグラムから撤収。

（他国の救助チーム「オランダ、英国、ドイツ」は１３日撤収・UNOCHA 情報）

（２）地域における唯一のレスキューチーム

同地域における唯一のレスキューチームとして被災民から大きな期待が寄せられる中での活動となった。

## ７．セクション別報告

１．　中隊長報告　東京消防庁

パキスタン地震災害に対する国際緊急援助隊救助チーム活動概要　田島　松一

（１）　派遣隊員活動付近図

（２）　派遣活動時間経過

（３）　活動内容

２．　業務調整員報告　ＪＩＣＡ国際緊急援助隊事務局

災害概要･派遣概要　山田　知伸

（１）　災害の発生状況　市原　正行

（２）　被害状況

（３）　チーム構成

（４）　発災から被災国到着まで・過去の派遣との比較

（５）　被災国内での移動

（６）　携行資機材

（７）　活動サイト

（８）　活動日程

（９）　他国救助チームの動き

３．　医療班報告（意見）　埼玉医科大学総合医療センター

（１）　医療班隊員　福島　憲治

（２）　全般的な意見

（３）　召集について

（４）　機材について

（５）　現地活動について

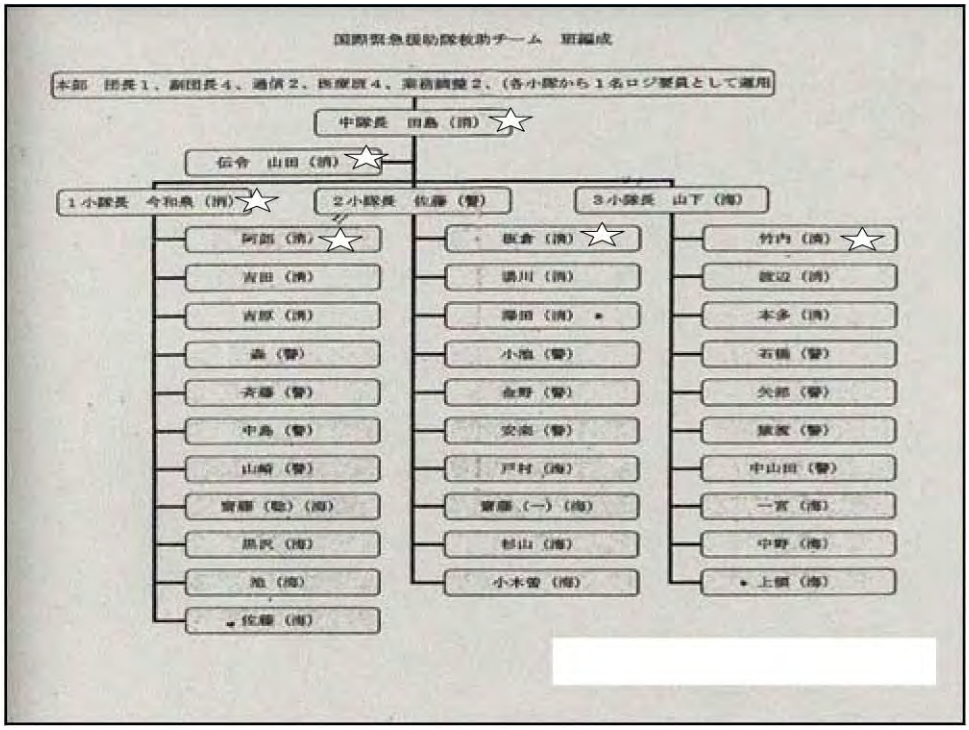
（６）　ストレス対策について

（７）　医療チームとの関係について

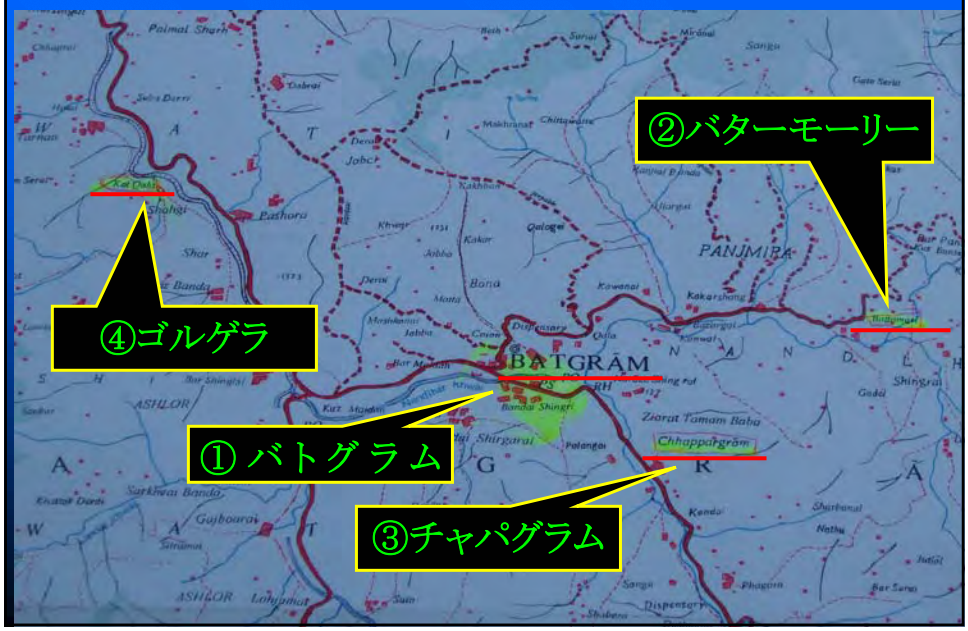
（８）　救助犬について

## （1 ） 中隊長報告

平成17年12月14日
東京消防庁警防部
パキスタン地震災害に対する
国際緊急援助隊救助チーム活動概要


国際緊急援助隊救助チーム　班編成
本部　団長１、副団長４、通信２、医療班４、業務調整２、（各小隊から１名ロジ要員として運用
中隊長　田島（消）
伝令　山田（消）
１小隊長　今和泉（消）
２小隊長　佐藤（警）
３小隊長　山下（海）
阿部（消）
吉田（消）
吉原（消）
森（警）
斉藤（警）
中島（警）
山崎（警）
齋藤（聡）（海）
黒沢（海）
池（海）
佐藤（海）
坂倉（消）
湯川（消）
岸田（消）
小池（警）
金野（警）
安楽（警）
戸村（海）
齋藤（一）（海）
杉山（海）
小木曽（海）
竹内（消）
渡辺（消）
本多（消）
石橋（警）
矢部（警）
旅渡（警）
中山田（警）
一宮（海）
中野（海）
上原（海）

## 派遣隊員活動付近図




## 派遣活動時間経過

| | | |
|---|---|---|
| 10日（月） | 16:35 | 病院倒壊現場の救助活動開始 |
| 11日（火） | 11:00 | バトグラム郡内の①病院倒壊現場の救助開始 |
| | 15:45 | ②病院倒壊現場の救助開始　21:30活動終了 |
| 12日（水） | 12:30 | バターモーリー地区に到着。活動開始 |
| | 18:15 | 女性の遺体を発見収容 |
| | 21:20 | 活動終了。 |
| 13日（木） | 12:21 | チャパグラムで情報収集するも、要救助者なし |
| | 14:33 | バターモーリーで情報収集するも、要救助者なし |
| | 14:46 | ゴルゲラで情報収集。要救助者の情報入手 |
| | 15:27 | ゴルゲラにて女性2名の遺体を発見収容 |

パキスタン地震災害　2005年10月　4

## 活動内容

倒壊病院の状況確認、進入口の確認

11日9時00分　病院現場活動

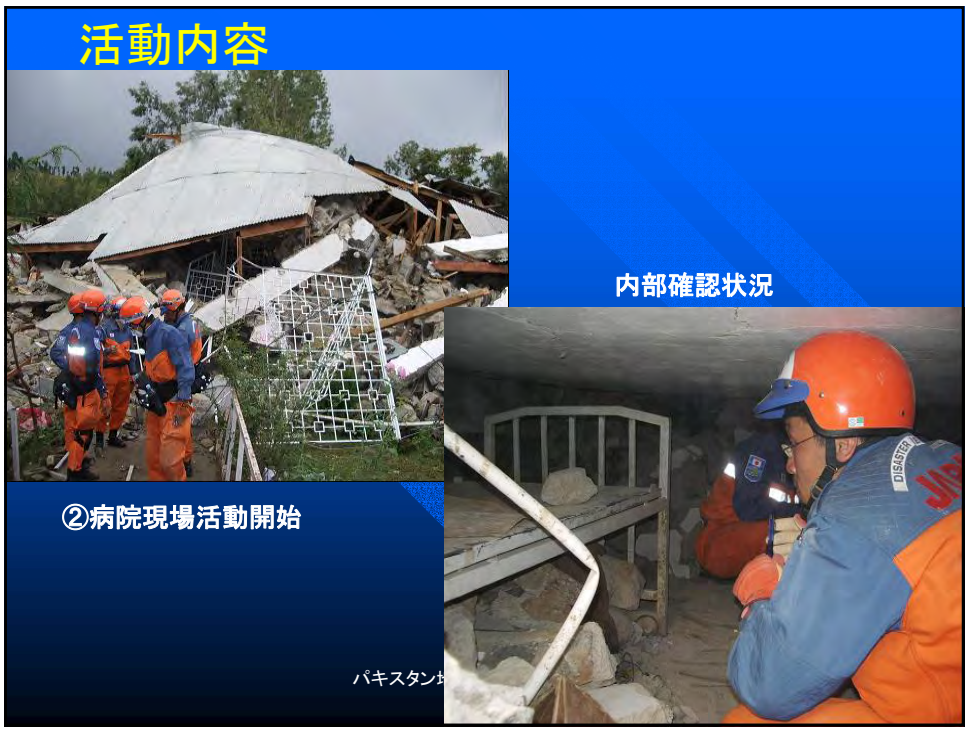
パキスタン地震災害　2005年10月　5

## 活動内容

２階の床に進入口設定完了

倒壊病院内状況確認、内部検索開始

パキスタン地震災害　2005年10月　6


活動内容
内部確認状況
②病院現場活動開始
パキスタン地

活動内容
12日8時30分
バターモーリー現場到着
12日6時50分
軍トラックに資器材積み込み
パキスタン地震災害 2005年10月
8

## 活動内容

8時30分
バターモーリー活動開始

パキスタン地震災害　2005年10月　9

## 活動内容

チャパグラム現場
村の代表者からの情報収集

チャパグラム現場
村の代表者からの情報収集

パキスタン地震災害　2005年10月　10

## 活動内容

ゴルゲラ救助活動現場

13日11時27分
救助隊と住民と協力して救出

パキスタン地震災害　2005年10月　11

## 活動内容

11時27分
救助隊と住民と協力して救出

検索活動にて２人目の少女を発見

パキスタン地震災害　2005年10月　12